

氏 名	中原 康雄
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第5567号
学位授与の日付	平成29年6月30日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 社会環境生命科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Maternal smoking as a risk factor for childhood intussusception (小児腸重積症の危険因子としての母親の喫煙)
論文審査委員	教授 塚原宏一 教授 萩野景規 教授 野田卓男

学位論文内容の要旨

腸重積症は乳児の絞扼性腸閉塞を生じる疾患の一つであるが、その発症のリスク因子に関する報告は多くない。2010年より行われている21世紀出生児縦断調査を用い、腸重積症による入院と母親の喫煙との関連について検討した。児が6ヶ月時の調査結果から母親の喫煙状況についての情報を、また18ヶ月時の調査結果から、6ヶ月から18ヶ月の1年間の腸重積症による入院の情報を抽出した。多変量解析により可能性のある交絡因子について調整をおこなった。その結果、母親の喫煙は児の腸重積症による入院のリスクを上昇させ（調整オッズ比=2.75, 95%信頼区間1.09-6.96）、また母親の喫煙の程度と腸重積症の発症に関しては、正の量反応関係を認めた。母親の喫煙は6-18ヶ月の児において腸重積症の発症リスクの上昇に関与していると考えられた。

論文審査結果の要旨

腸重積症は乳幼児の腸閉塞、急性腹症の原因疾患として重要である。非観血的整復や場合によっては手術治療を要するが、治療しない場合は腸管壊死が生じる。腸重積症発生の機序として乳幼児における腸管蠕動異常が推定されるが、具体的な危険因子については今まであまり報告されていない。

本研究では、厚生労働省が2010年から行っている21世紀出生児縦断調査を用いて、母親の喫煙が生後6～18か月の期間における腸重積症による入院に及ぼす影響について検討された。今回の研究では、母親の生後6か月時における喫煙が生後6～18か月における腸重積症による入院の調整オッズ比を有意に上昇させることができた。また、喫煙の程度が重度の方が軽度の場合よりも調整オッズ比が高いことも示された。

本研究は、母親の喫煙が腸重積症の発症リスクを上昇させることを示した最初のコホート研究である。母親の禁煙が腸重積症の発症を減少させる可能性を示唆する結果でもあり、重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。